



循環社会推進協議会 2024年度第2回公開セミナー報告書

1. 開催日時： 2024年11月12日 13時00分～17時00分
2. 開催場所： 三好市池田総合体育館 二階会議室
3. Web会議(Webex) ハイブリット形式
4. 参加者：約100名 WEB参加者含む
5. 内容
開会挨拶 実行委員長 三好市議員 並岡和久

① ご来賓挨拶 徳島県三好市長 高井美穂様代理 三好市副市長 北川政宏様

② 活動概要説明

「プロジェクトの展開Ⅰ」「農業（林業）・漁業そして近代産業」
一般社団法人循環社会推進協議会 代表理事 熊谷枝折

③ 活動概要説明

「プロジェクトの展開Ⅱ」「グリーン・マテリアルの循環と展開」
一般社団法人循環社会推進協議会 会長 坂本満

④ 講演1<基調講演>

「日本のカーボンニュートラルへの挑戦と課題Ⅲ」
～Mgの果たす役割と期待～（金属資源供給の危機）
一般社団法人循環社会推進協議会 海洋資源部会長 星野岳穂
（東京大学 工学部大学院マテリアル工学科 教授）

⑤ 講演2

「循環社会におけるマグネシウムの役割」（マテリアルセキュリティとして）
一般社団法人循環社会推進協議会 製錬部会長 柴田浩幸
（東北大学 多元物質科学研究所 教授）

⑥ 講演3 「サーキュラーエコノミーそしてソーラーパネルのリサイクル」

株式会社新菱 サークュラーエコノミー事業部門 企画管理本部長 守谷大輔

⑦ 講演4 「グリーンピジョン法の実現について」

一般社団法人循環社会推進協議会 製錬部会 新川淳也
(第一高周波工業株式会社 技術開発室長)

- ⑧ 講演5 「ゼロ・カーボンEVへの挑戦」※展示説明実施
一般社団法人循環社会推進協議会 EV部会 斉藤純
(学校法人玉川大学 工学部 准教授)

- ⑨ 公開ディスカッション

「三好をグリーン・マテリアル発祥の地に」

座長： 枡川重男

一般社団法人循環社会推進協議会 応用部会長

(学校法人東京電機大学 名誉教授、電気設備学会会長)

パネラー：

北川政宏 徳島県三好市副市長

木村英樹 一般社団法人循環社会推進協議会 EV部会長 (東海大学)

斉藤純 一般社団法人循環社会推進協議会 EV部会 (玉川大学)

柴田浩幸 一般社団法人循環社会推進協議会 製錬部会 (東北大学)

星野岳穂 一般社団法人循環社会推進協議会 海洋資源部会 (東京大学)

出口祥啓 徳島大学 大学院社会産業理工学研究部 教授

守谷大輔 株式会社新菱

阪間寛 一般社団法人循環社会推進協議会 電池部会長 (藤倉コンポジット)

新川淳也 一般社団法人循環社会推進協議会 製錬部会 (第一高周波工業)

楯貴幸 一般社団法人循環社会推進協議会 海洋エネルギー部会 (古河産業)

・最初に、熊谷代表理事が本日の公開ディスカッションの座長、枡川氏を紹介し、座長挨拶として今回のディスカッションの目的を説明した。続いて、熊谷代表理事が各パネラーを紹介し、今回のセミナーに初登場のパネラーは簡単な自己紹介のプレゼンを行った。

・続いて枡川座長から、柴田製錬部会長に製錬部会の産学連携活動について問いかけた。柴田部会長からは、採算性がまだ見えていないが、これから事業化に向けて本気で取り組む事業者がいるかが鍵となるとの返答があった。

・枡川座長から出口氏に、徳島大学との産学連携について問いかけた。出口氏からは専門分野のDXが進んだ工場が建設されることへの期待が語られた。

・枡川座長から星野海洋資源部会長に、生産拠点の選定について問いかけられた。星野部会長からは、地域の特徴を生かすことが大切であることが述べられた。

・枡川座長から新川氏に、グリーンピジョン法の製錬装置開発の進捗が質問された。新川氏からは、現在回収率が60%程度の進捗であり、一層の効率化を目指していることが報告された。また、採算性の向上のため原料の低コスト化も必要であることが指摘された。

・更に枡川座長から新川氏に設備の大きさが問われ、新川氏からは現在のサイズと効率的な大型化に向けてのシミュレーションも行っていることが報告された。

・枡川座長から守谷氏に、グリーンピジョン法の還元剤として検討している再生シ

リコンを回収する太陽光パネルリサイクル工場について質問した。守谷氏からは、リサイクルは産廃処理費で行っていること、シリコンセルは総重量の3%だけであること、現在は銀の回収のために精錬メーカーが買い取っていることなどが回答された。枡川座長から、四国への進出を問うたが、今のところ視野にないとの返答があった。

・枡川座長から阪間電池部会長に、アウトプットとしてもっとどういう展開が出来るかを質問した。阪間部会長からは、大容量としてのポテンシャルはあるので、例えば車や発電機での利用の可能性も考えられると回答があった。

・枡川座長から北川副市長に、地域に合わせた車はどんな車があったら良いかを問うた。北川副市長からは、EVの軽トラックがあると良いとの返答があった。

・枡川座長から木村EV部会長に、自動車でのMgの利用について問いかけた。木村部会長からは、軽量化に使えること、材料として鉄は重く、Mg、Ti、Alをうまく使えるようにしたいこと、Mg電池に使うのはもったいなく構造体に使いたいこと、メッサーシュミットのEVを作りたいなどのコメントがあった。

・枡川座長から北川副市長に、三好市の強みについて質問がなされた。北川副市長からは、水力発電所があることと水力発電の持つ強みが説明された。発電所が山間部にあり長い送電線を必要とすることは弱みであるが、水力発電所の横に工場を設置することにより解決可能であることが示唆された。

・最後に枡川座長から、地域性を活かして計画し、三好をグリーン・マテリアルの発祥地とするための協力を呼びかけて公開ディスカッションを終了した。

閉会挨拶 実行副委員長 前田雅彦（革新推進委員会委員長）

以上







以上公開セミナーの様子



太陽光発電による電気自動車 (EV) への充電の様子 (玉川大学)



製品展示【左から】液体検知センサ、WattSatt (青) /アクアチャージ (黄色) [共に非常用マグネシウム空気電池] (藤倉コンポジット(株))